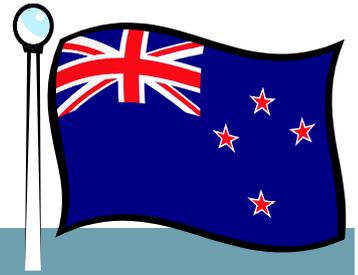


オセアニア[NZ]



1 農・畜産業の概況

ニュージーランド（NZ）の農業（林業、水産業を除く）は実質国民総生産（GDP）や就業人口に占める割合がいずれも1割にも満たない。しかし、総輸出額（FOB）に占める農産物の割合は、6割程度となっており、外貨獲得上、農業は重要な地位を占めている。

NZは、温暖な気候と肥沃な土壌に恵まれ、国土面積（2680万ヘクタール）のうち、5割を超える1470万ヘクタールが農地として仕向けられている。一方で、人口は約440万人と少なく、国内市場が小さいため、貿易に依存した構造となっている。

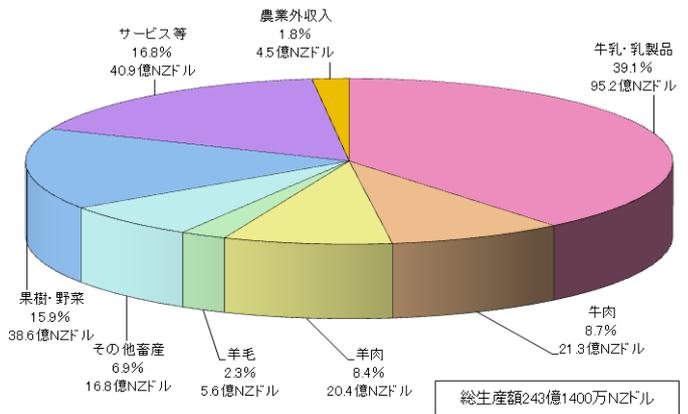
畜産部門は、農業粗生産額の約3分の2、農産物輸出額の約8割を占めている。特に酪農・乳業は、農業粗生産額の約4割、農産物輸出額の約5割（総輸出額の約4分の1）を占めるなど、農業において極めて重要な役割を果たしている。

2010/11年度（4月～翌3月）の農業粗生産額を部門別に見ると、酪農部門は、乳製品国際価格の上昇を背景に、前年度比20.4%増の95億NZドル（推計）と大幅に増加した。牛肉部門も、同15.4%増の21億NZドル（推計）となった。この結果、畜産部門全体で、同13.6%増の159億NZドルとなっている。

2010/11年度（7月～翌6月）の農産物輸出額(FOB)は、前年度比17.0%増の243億NZドルと大幅に増加した。このうち、畜産物は、同20.4%増の193億NZドルとなった。内訳を見ると、牛乳・乳製品が121億

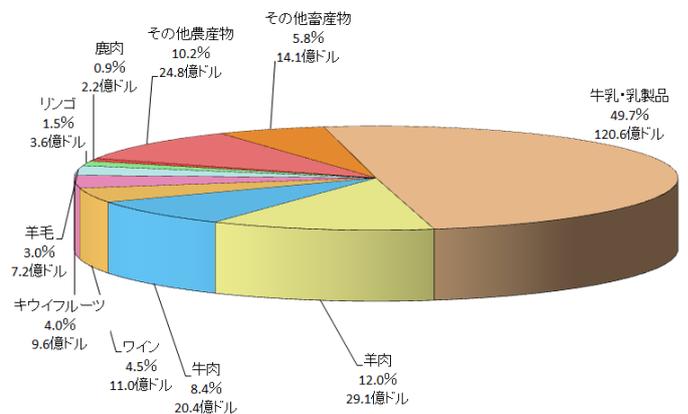
NZドル（27.2%増）、牛肉（生体を除く）が20億NZドル（11.7%増）、羊肉（生体を除く）が29億NZドル（3.8%増）、羊毛が7億NZドル（29.9%増）、鹿肉が2億NZドル（3.0%増）と軒並み増加した。

図1 農業粗生産額(2010/11年度)



資料:MAF「SONZAF 2011」

図2 農産物総輸出額(2010/11年度)



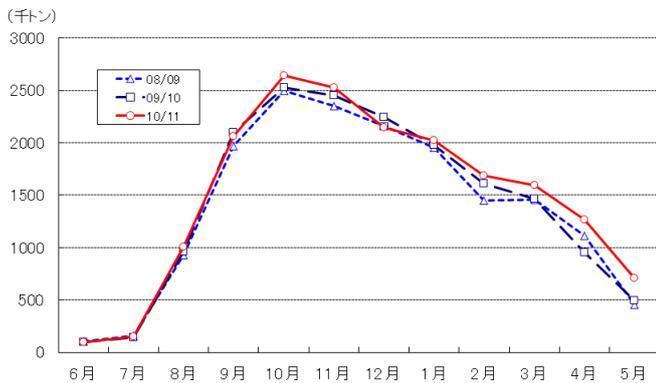
資料:Compendium of New Zealand Farm Facts (36th edition March 2012)

2 畜産の動向

(1) 酪農・乳業

NZの酪農は、温暖で降雨に恵まれた自然条件を生かし、草地を最大限に利用した放牧中心の飼養形態である。このため、年間の生乳生産は、牧草の生育状況と密接に連動しており、初春となる8月から搾(さく)乳を開始し、10から12月の初夏をピークにその後次第に減少、5月頃にはシーズンを終えるという明確な季節型生産体系を示している。生乳生産の中心となる9月から翌2月の6カ月間で、年間の約4分の3を生産する。

図3 生乳生産量の推移



資料: Dairy Companies Association of New Zealand

NZでは、粗飼料(放牧)に依存した生産体系により、生乳生産のコストは世界的に見て最も低い水準にある。生産量の約95%が輸出に仕向けられる乳製品は、NZの総輸出額の1/4程度を占めており、酪農・乳業部門はNZの基幹産業の一つとして位置付けられている。

NZは、生乳生産量は全世界の約3%を占めるにすぎないが、世界最大の乳製品輸出国である。特にバタ

ーおよび全粉乳の国際市場でのシェアは5割を超える。国内市場の規模が小さいため、生乳生産者価格や乳製品価格は、いずれも国際市場の影響を強く受けざるを得ない状況にある。

① 主要な政策

酪農・乳業への国内の価格支持政策は存在しないが、2001年9月まで、ニュージーランド・デイリーボード(NZDB)が乳製品の一元輸出機能を持っていた。しかし、同年10月、2大酪農協とNZDBの販売機能を取り込んだ巨大酪農協(乳業メーカー)フォンテラが誕生し、酪農産業の再編が行われた。

フォンテラの誕生と同時に2001年、生乳および乳製品市場での競争を促進することを目的とした酪農産業再編法(Dairy Industry Restructuring Act 2001)が成立した。同法には、フォンテラの寡占による弊害を回避するため、乳業メーカーの新規参入の機会付与が盛り込まれている。このため、2011年現在、フォンテラには年間60万キロリットルを上限として、他社に生乳を供給することが義務付けられている。

生乳生産は、1990年代を通じて好調な輸出を反映して増加基調で推移し、2000/01年度(6月~翌5月)には処理量ベースで1292万5000キロリットルと、1990/91年度から82.6%の大幅な増加となった。経産牛の飼養頭数で見ても同36.1%の大幅増である。その後も、経産牛飼養頭数および1頭当たり搾乳量の増加を反映して、生乳生産は右肩上がりでも推移している。2010/11年度の経産牛飼養頭数は、前年度比3.0%増の約452万9000頭となった。また、生乳生産者価格が堅調であったことや天候に恵まれて牧草の生育が

良好であったことなどを受け、生乳生産量も前年度比5.2%増の1733万9000キロリットルとなった。

NZの生乳生産は北島が中心であるが、近年は南島の拡大が著しい。2010/11年度の経産牛頭数をみると、北島は前年度比1.5%増の291万頭とわずかな増加にとどまる一方、南島は同5.7%増の162万頭とかなり増加した。これは南島において、収益性に勝る酪農部門へと、羊・肉牛部門からの転換が進んでいることによるものである。

図4 乳用経産牛頭数と生乳処理量の推移



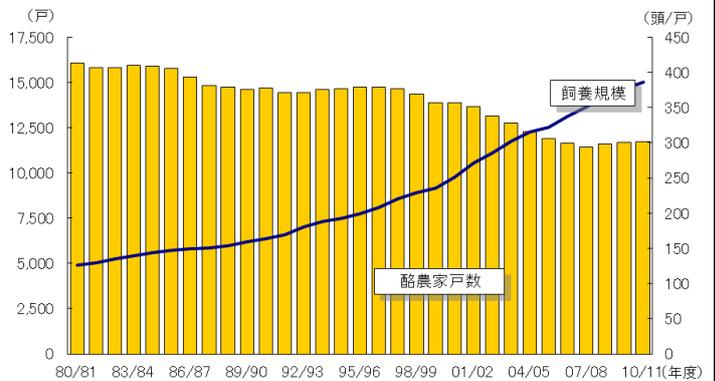
資料: Livestock Improvement 「Dairy Statistics」
 注1: 年度は6月～翌5月
 注2: 乳用経産牛頭数は12月末時点

酪農家戸数は、農地価格の上昇などから新規参入が減少したため、NZ全体では減少傾向で推移していたが、2008/09年度に下げ止まり、2009/10年度は、前

年度比0.4%増の1万1735戸とほぼ横ばいとなっている。

一方、1戸当たりの経産牛飼養頭数は、規模の拡大により一貫して増加傾向にあり、2010/11年度は前年度比2.7%増の386頭となった。500頭以上を飼養する経営が全体の飼養頭数に占める割合は、前年度比1.4ポイント増の47.7%、1000頭以上を飼養する経営が全体の飼養頭数に占める割合は同1.4ポイント増の13.0%となった。

図5 酪農家戸数と飼養規模の推移



資料: Livestock Improvement 「Dairy Statistics」

表1 地域別の飼養戸数・頭数・規模の推移

地域/区分・年度	飼養頭数(千頭)					飼養戸数(戸)					飼養規模(頭/戸)				
	05/06	06/07	07/08	08/09	09/10	05/06	06/07	07/08	08/09	09/10	05/06	06/07	07/08	08/09	09/10
北島	2,737	2,761	2,757	2,821	2,862	9,619	9,343	9,050	8,998	8,973	285	296	305	314	319
南島	1,095	1,155	1,256	1,432	1,535	2,264	2,287	2,386	2,620	2,718	484	505	526	546	565
NZ合計	3,832	3,917	4,013	4,253	4,397	11,883	11,630	11,436	11,618	11,691	322	337	351	366	376

資料: Livestock Improvement 「Dairy Statistics」
 注1: 年度は6月～翌5月
 注2: 12月末時点
 注3: 頭数は当該シーズンに搾乳された乳用牛頭数

② 牛乳・乳製品の需給動向

NZの乳製品生産は、かつて、法律に基づき輸出を一元管理するNZDBの市場戦略により調整されていたが、フォンテラの設立に際し、輸出が自由化された。しかしながら、同国におけるフォンテラの乳製品生産のシェアは、依然として約9割を占める。

輸出相手国は、フォンテラの企業戦略と相まって、北米、EU地域、アジアや中南米など世界140カ国となっている。フォンテラは、2002年に世界的な大手食品メーカー「ネスレ」と合併企業を設立。2003年1月から中南米の市場での乳製品製造・販売を手がけ、また2007年には中国において牧場を建設し生乳生産を行うなど国際市場への積極的な進出を図っている。

2010/11年度（7月～翌6月）の乳製品輸出量は、バターは前年度比0.9%減の25万トン、チーズは同11.0%減の24万8000トン、全粉乳は同18.2%増の106万8000トン、脱脂粉乳は同9.3%減の34万9000トンと、全粉乳を除いて前年割れとなった。全粉乳の増加については中国からの需要増によるものである。

表2 生乳生産量および乳製品輸出量の推移

(単位:千頭、千トン)

区分/年度	05/06	06/07	07/08	08/09	09/10
経産牛頭数	3,832	3,917	4,013	4,253	4,397
生乳生産量	14,702	15,134	14,745	16,044	16,483
バター	247	245	240	243	247
チーズ	272	311	274	271	279
全粉乳	640	652	634	683	903
脱脂粉乳	248	327	252	330	384

資料: Livestock Improvement 「Dairy Statistics」、Statistics New Zealand

注1: 経産牛頭数は各年度12月末時点

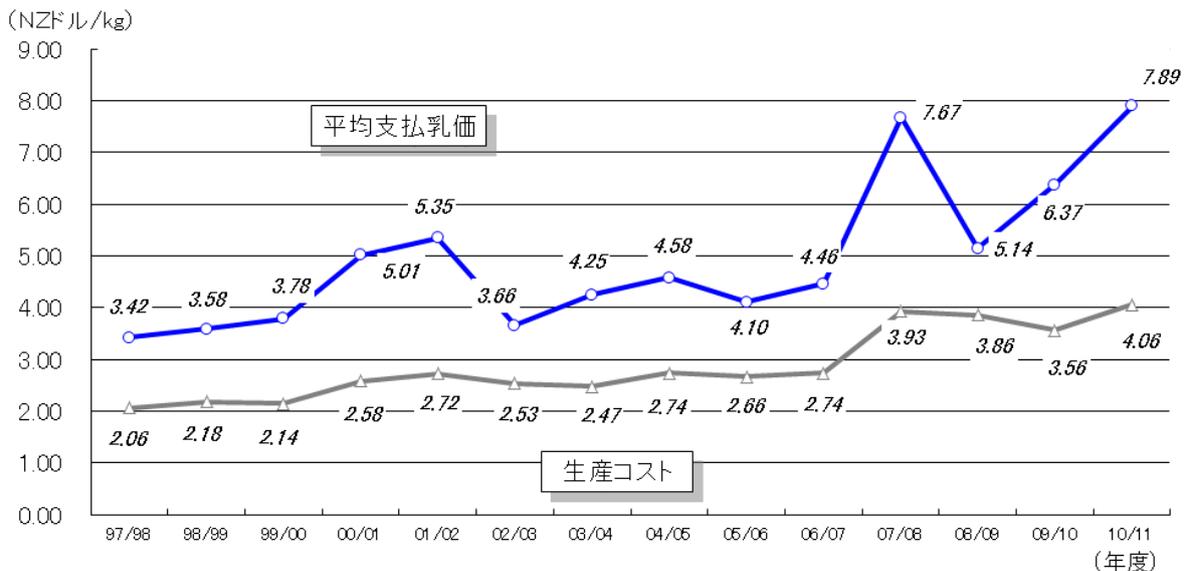
注2: 乳製品輸出量は各年7月～翌6月

③ 乳価の動向

生乳生産者価格（平均支払乳価）は、乳製品の国際需給に大きく影響され、国際価格や為替相場（NZドル）の動向などに左右される。

2010/11年度の乳固形分キログラム当たりの価格は、国際乳製品価格が堅調であったことなどから、前年度比23.9%高の7.89NZドルと大幅に上昇した。

図6 生産コストと平均支払乳価の推移(乳固形分ベース)



資料: Dexcel 「Economic Survey of New Zealand Dairy Farmers」、Livestock Improvement 「Dairy Statistics」

(2)肉牛・牛肉産業

NZの肉牛生産は、草地に依存した生産体系となっており、放牧肥育が大半を占め、穀物肥育は例外的といえる。

年間の牛肉生産（と畜）の傾向は、生乳生産と同様に牧草の生育ステージと密接に連動しており、生乳生産が終了する5月にピークを迎える。その後は春先にかけて大きく減少という季節性を有している。このため、生産が落ち込む8月から翌9月にかけての成牛のと畜頭数は、ピークの3月から5月の3分の1程度にまで減少する。

肉用牛として飼養される3分の1程度は、乳用種または乳用種と肉用種の交雑種となっている。

酪農部門から供給される乳用種の雄牛は、子牛肉として出荷されるものが多いが、残りは去勢しないまま飼養され、乳用経産牛と同様に加工用牛肉（ひき材用途）として、米国を中心とした北米市場に輸出されている。このことから、酪農部門は、肉牛供給という面からも牛肉生産にとって重要な役割を担っている。

NZの肉牛生産は、酪農部門と同様に、国内の市場規模が小さいことから輸出依存度が高く、生産された牛肉のうち、金額ベースでおよそ8割程度が輸出に向けられている。このため、肉牛生産も酪農部門と同様、価格面などで国際市場の影響を強く受けている。

① 肉用牛の生産動向

肉用牛の飼養頭数は、収益悪化による経営規模の縮小や、酪農、養鹿、林業など収益性の高い部門への転換などが背景となり、1995年の518万頭をピークに減

少を続けていた。また、1997/98年度および1998/99年度と東部を中心とする干ばつが続き、早期出荷や繁殖牛のとう汰も進んだ。その後も、酪農やほかの畜種への転換などで飼養頭数は回復せず、2011年6月時点の肉用牛飼養頭数は、前年比0.2%減の394万2000頭となった。

表3 牛飼養頭数の推移

(単位:千頭)

区分/年	2006	2007	2008	2009	2010	2011
肉用牛	4,439	4,394	4,137	4,101	3,949	3,942
うち経産牛	1,269	1,195	1,104	1,096	1,118	1,079

資料:2008年以前は Meat & Wool NZ「Annual Report」、2009年以降は beef + lamb NZ「Annual Report」

注2: 6月末時点

注3: 2011年は暫定値

② 牛肉の需給動向

牛肉の生産量は、1996/97年度（10月～翌9月）を境に減少傾向にあったが、2000/01年度以降干ばつから回復したことで、増加に転じた。その後は、飼養頭数の増減に合わせ変動するものの、60万～70万トンの中で推移している。

2010/11年度については、成牛のと畜頭数は238万1000頭（前年度比0.2%増）と前年並みとなったものの、1頭当たり枝肉重量の減少により、牛肉生産量（子牛肉除く）は61万トン（同2.3%減）とわずかながらも減少となった。

2010/11年度の輸出量は、前年度並みの35万7000トンとなった。このうち、最大の輸出先である北米向けは17万6000トンと輸出量全体の半数近くを占め、次いで北アジア向けが9万トンと4分の1程度を占めている。

③ 肉牛・牛肉の価格動向

NZでは生産された牛肉のうち半数以上が輸出市場に向けられることから、国際市場における牛肉価格の動向やNZドル為替（対米ドル、対英国ポンド、対ユーロ）の影響を強く受ける。

2010/11年度の肉牛価格は、世界経済の回復基調や世界の主要輸出国の天候不順による供給減などを背景に、牛肉の国際価格が堅調に推移したことを受けて、前年度比21.8%高のキログラム当たり408NZセントとなった。

表4 牛肉需給・価格の推移

(単位:千頭、千トン、NZセント/キログラム)

区分/年度	06/07	07/08	08/09	09/10	10/11
成牛と畜頭数	2,292	2,367	2,431	2,376	2,381
子牛と畜頭数	1,369	1,507	1,421	1,552	1,658
牛肉生産量(成牛)	601	610	612	610	596
子牛肉生産量	23	25	25	25	27
輸出量	352	363	364	366	357
高品質牛肉価格	322	333	370	335	408

資料:2008年以前のと畜頭数、生産量および輸出量は Meat & Wool NZ,

2009年以降は beef + lamb NZ、牛肉価格はMPI

注1:年度は10月～翌9月、ただし、牛肉価格については、7月～翌6月

注2:生産量は枝肉重量ベース

注3:輸出量は船積重量ベース